

高山の文化を高めた人々 60

もくちょう
木彫

元田 月山

元田 木山



昭和28年春 一彫会の勉強会(左から2人目)

仏像が好きで、旅が好き。洋楽を好み、煎茶を欠かさず。アルコールは体質的に受け付けず…。

父は大正二年、元田家の長男として高山に生まれました。十代半ばで、山王の麒麟台彫刻や高山別院の山門彫刻(焼失)等を手掛けられた、初代 村山群鳳氏に弟子入りし、彫刻の道へ入りました。八年間という修業期間は、今

と比較しても長かったと思われま

す。

この修業から父は木彫を

志し、大きな

ものは、等身

大の御神体・

教主像、山王

の鳳凰台屋根

上の鳳凰彫刻、三番叟の五色

の雲彫刻、飛騨各地の祭礼の

獅子頭、小さなものは、ナツ

メ材を使った煙草印籠や根付

と、本当に多彩な仕事を手掛

けていました。

仏像は特に好んで彫ってい

ましたが、戦後間もないころ

には東京青山のお店を介し、

アメリカ人のお土産としてマ

リア像やキリスト像も沢山彫

り、家族を支えたと聞いてい

ます。

そんな生活の大変な中、昭

和二十年代後半には東京での

日彫展に入選。また、中部地

方での公募展等に作品を出品

しておりました。今と違い、

交通物流が不便な時代に、よ

くぞ長くチャレンジしたもの

だと思っています。

高山では、一彫会というグ

ループで彫刻の勉強会や展覧

会、守洞春氏や長倉三朗氏等

と美術展を開催していまし

た。



昭和31年 奈良法隆寺、夢殿にて

昭和三十年代の事

と思われま

すが、日

本の木彫刻界の巨

匠、平櫛田中氏ひらくさでんちゅうが高

山市郷土館へ円空像

を見に來られたこと

がありました。一彫

会や展覧会などの活

動をしていたため

か、当時の館長の小

林幹氏から電話をいただき、

父はすぐさま出かけて行き田

中氏と会話をする機会を頂き

ました。田中氏は、円空像に

非常に感銘を受けておられた

そうです。

この話には後日談がありま

す。先年、県内在住の芸術院

会員の彫刻家 神戸峰男先生

と会食する機会を頂き、談笑

の中でこの話をしましたとこ

ろ、田中氏はその足で土岐へ

行き、若かりし神戸先生の実

家で一泊されたそうです。さ

らに、東京の先生の指示で神

戸先生が東京までお供した

と、懐かしそうに話されまし

た。半世紀の時を経て、世代

を超えてつながったエピソードであり、こういう事が文化

の伝承なのかも知れないと感

じました。

話を元に戻しますが、父は

円空像の調査・研究等で郷土

学の方々とも親交がありまし

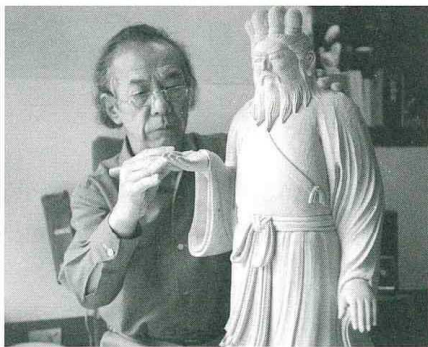
た。初代民俗館館長で小糸焼

を再興された長倉三朗氏とは、美術と郷土学の両面で話が合い、またアルコールが要らないこともあり、親しくさせて頂いておりました。小糸焼の初窯開きにも立ち合つたと聞いています。

六十代半ばから、両夫婦四人で巡った西国三十三カ所霊場、諸国一ノ宮参拝、四国八十八カ所霊場巡りの旅は、本当に楽しかったそうで、帰宅するたびに面白い話をしていました。

今から十年くらい前のことですが、木彫刻の巨星 高村光雲氏の彫刻の鑑定をされている高村規氏が我が家にいらつしやうとした折り、父の作品を見て頂きました。氏は「父上は、大変ノミを切らした方でしたね。」と評価して下さいました。木彫を志し六十余年、父も喜んでいと思います。

平成十年没。行年八十六歳。



昭和50年 工作中